

虹口公園見学

細野加奈子(東京女子大学)

上海の北西部に広がるこの公園は、約22万平方メートルというとても広い公園である。魯迅公園とも呼ばれ、園内に魯迅のお墓と魯迅記念館がある。

6時頃公園に着いてみると、朝早くから既に人が大勢いた。公園自体も大きいのだが、日本での休日の昼間の公園よりも断然人が多という印象を受けた。園内に入ると早速、音楽に合わせて太極拳をしている人々の姿が目に入った。さらに歩いていくと、ペットボトルの先を改造して、筆のようにしたもので路上に字を書いているおじさんがいた。自然とその人の周りには人が集まり、皆おじさんの書く文字の達筆さに感心して眺めている。すると今度は逆さまに字を書き、そこでまたどよめきが起る。するとさらに今度は鏡文字を披露してくれ、見る者を楽しませてくれた。



魯迅のお墓は、緑に囲まれた庭のような空間の中にあつた。墓碑には毛沢東直筆の「魯迅先生の墓」という字が刻まれている。

また音楽が聞こえてくると思ったら、社交ダンスをしている人々がいた。その隣では、太極扇というのだろうか、人々が赤い鮮やかな扇を手に踊っていた。少し大きな道からずれて、小さめな道を抜けるとそこでは比較的少数人の人が集まり手をブラブラさせる運動や太極拳をしていた。また、道をわざと後ろ向きに歩いている人もいた。自分も後ろ向きに歩いてみたが、どうしても後ろが気になつてうまく歩けない。おまけに人も多いので人

にすぐぶつかりそうになる。

6:30ぐらいから7:00頃になると公園から人が減っていく。肉まん(のようなもの)を食べながら、公園の出口の方へ歩いていく。皆それぞれ家に帰ったり出勤したりするのであろう。日本ではまだ通勤電車にも乗っていない、朝の支度や、人によってはちょうど起きだす時間帯かもしれない。



このように朝、公園では皆何かしらの運動をしている。運動といっても、激しいスポーツというより、太極拳などのゆったりと体を動かすものである。それでも、朝早くから体を動かす習慣があることはとても良いことであると思う。日本では朝みんな体を動かすというのは、小中学生の頃の夏休みのラジオ体操があつたが、それ以外では普段スポーツをやる人とやらない人で、運動する機会というのは大分差があるのではないだろうか。私は朝の通学途中、自宅近所の公園で散歩やテニスをしている人々を見かけるが、いつも決まった人々である。また、公園内では車椅子姿の人が、朝の散歩をしている光景も見られた。

高齢者も障害者も関係なく、皆で集まり体を動かす場やそのような習慣がある。高齢化が進む中、体のどこか調子が悪くなる、障害がでてくるという人もいるだろう。少しの散歩や運動をする習慣、また人々との交流の場としても、日本にもこのような光景がもっと多く見られることを望む。